

「子規」は趣味のひとつ

尾鷲市立図書館協議会委員 大川 新

「柿食へば鐘が鳴るなり法隆寺」。「古池や蛙飛び込む水の音」（松尾芭蕉）とともに、俳句の代名詞というべき正岡子規の句であることは言うまでもない。この句とともに、子規の晩年が病のため寝たきりの生活で、それでも句作に励み、執筆活動を続け、また周囲を呆れさせるほどの旺盛な食欲であったこともよく知られている。

私が子規に興味を持ったのがいつの頃かは定かではないが、『坂の上の雲』（司馬遼太郎著）を読んでからであることはまちがいない。それから、書店や図書館で子規のことを書いた本を見つけると、ついつい読んでしまう。子規の著作も読んだことはあるが、あくまでも子規のことを書いた本である。たとえば、『正岡子規』（ドナルド・キーン著）、『ノボさん—小説・正岡子規と夏目漱石』（伊集院静著）、『子規の音』（森まゆみ著）など。子規のどこが好きなのか、なぜ好きなのかは説明できない。短歌と俳句に革命をもたらした子規、野球が好きだった子規、旅好きだった子規、お金に無頓着な子規、大食漢で健啖家の子規…。いろいろな側面が見えてくるが、私にとっては知れば知るほどもっと知りたくなる人物である。

しかし、私と同じように子規を好きな人と子規について語り合う、などはまっぴらだ。自分の趣味についての他人の意見など聞きたくはない。とにかく、ひとりで子規の残した句を読み、子規について書かれた本を読み、できれば子規に縁のある地を訪ねたい、と思うばかり。そういえばまだ若い頃のことだが、子規堂、子規記念博物館（いずれも松山市）と子規庵（東京都台東区）に行ったことがある。坂の上の雲ミュージアム（松山市）にも行ってみたいと思うが、リタイア後のゆしみにとっておく。そうそう、奈良市に子規の庭というところがある。「柿食へば」の句を作った旅館の跡地で、目と鼻の先には法隆寺ではなく東大寺があるのだ。実に興味がある。



法隆寺



正岡子規さん

『坂の上の雲』と『ノボさん』は図書館にあります。この機会にどうぞ！

図書館行事報告

☆子ども読書会開講（6月20日（土））

昭和42年から毎年恒例となっている「子ども読書会」。新型コロナウイルス感染症の影響が心配されましたが、無事に開講することができました。

読み聞かせに詩の朗読、図書館探検などを行いました。



2020 8 August						
月	火	水	木	金	土	日
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2020 9 September						
月	火	水	木	金	土	日
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

2020 10 October						
月	火	水	木	金	土	日
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

おはなし会の予定

★8月22日（土）11：00～
幼児室（2階）

おはなしだっこ【赤ちゃん対象】
★8月 お休み

※9月・10月は決まり次第、
広報おわせ・HP等でお知らせします

尾鷲市立図書館（〒519-3616 三重県尾鷲市中村町 10-41）

開館時間 火～金 9：30～19：00／土日祝 9：30～17：00

休館日 月曜日・月末 ※月曜日が祝日の場合は翌日休館

年末年始・蔵書点検期間 月末が土日の場合は直前の金曜日休館

電話番号 0597-23-8282 FAX 0597-23-8283

図書館 HP <https://ilisod003.apsel.jp/owase-library/>



図書館だより 2020年夏号

つみくさ

第163回
芥川賞・直木賞決定！

＊芥川賞
高山羽根子「首里の馬」
遠野 遥「破局」

近日配架予定
しばらくお待ち下さい

＊直木賞
馳 星周『少年と犬』

図書館にあります

7月15日、今年上半期の芥川賞と直木賞が決定しました。

今回の芥川賞は高山羽根子さんと遠野遥さんのダブル受賞。

直木賞は7度目の候補となっていた馳星周さんが受賞しました。

尾鷲ゆかりの作家・伊吹有喜さんは今回受賞ならずでしたが、

とてもワクワクさせて頂きました。ありがとうございました！

『少年と犬』（馳 星周／著、
文藝春秋）



震災で失業し、家族のため犯罪に手を染めた男が拾った犬。守り神になったその犬はある意志を秘めていた一。

伊吹有喜さんの
直木賞候補はコナラ！



『雲を紡ぐ』（文藝春秋）

《目次》

- ・図書館利用者さんの「これ読んでみいー！」
- ・図書館エッセイ…大川新さん
- ・芥川賞・直木賞

- ・「ねえねえ知ってる？」…伊吹有喜さん
- ・3ヶ月ランキング
- ・図書館HPがリニューアルしました
- ・図書館行事報告／カレンダー



『火喰鳥』（今村 翔吾／著、祥伝社）

羽州ぼろ鳶組シリーズ。かつて、江戸随一と呼ばれた武家火消、松永源吾。別名「火喰鳥」。しかし5年前の火事が原因で、今は貧乏浪人暮らし。そんな彼の元に出羽新庄藩から、突然仕官の誘いが…。「ぼろ鳶」と蔑まれる火消集団の一発逆転ストーリー。

たいへん面白い。主人公はカッコイイ火消して、妻はしっかり者。人の命はすごく大切にするのに、自分の命は後回し。でもそんな自分の犠牲を顧みやんともカッコイイ。中心メンバーも個性的！作者さんのデビュー作で、シリーズ物。読んでみてね。

K.Oさん（60代女性）←昨年度の最多利用者さんです！



『老父よ、帰れ』

（久坂部 羊／著、朝日新聞出版）

老人ホームから認知症の父を自宅に引き取った、45歳の好太郎。父の介護に懸命に取り組むが…。高齢者医療を知る医師でもある著者が、懸命に取り組むがゆえに空回りする家族の悲喜劇を描く。

自分の親を介護するうちに家族とのいざこざが起こったりして認知症の介護の問題などがよくわかる小説。高齢社会を迎え、いつ自分の身に起こるかもしれない親の介護。一度読んでおくのもいいかも。

S.Uさん（80代男性）



『また、桜の国で』

（須賀 しのぶ／著、祥伝社）

ワルシャワの在ポーランド日本大使館に着任した外務書記生の慎。ロシア人の父を持つ彼は第二次世界大戦回避に向け奔走し、アメリカ人記者レイと知り合う。だが遂にドイツがポーランドに侵攻し…。

2017年の高校生直木賞受賞作。第二次世界大戦の回避のため日本人外交官が奔走する話。大正時代に日本がポーランドの孤児を救済したことで後々ポーランドが日本のピンチを助けてくれるなど両国の関係を改めて知ることができた。これに登場するイエジさんは実在する人物で大人になってから来日もされてるそうです。国境なんて人間が勝手に作っただけで、本当はないんやなと思わせてくれました。

A.Mさん（50代女性）

『ポーランド孤児を救った日本赤十字社』も併せてオススメです！

芥川賞・直木賞

芥川賞・直木賞は昭和10年に始まり、今年で163回目を迎えました。第1回芥川賞受賞は石川達三の「蒼氓（そうぼう）」（当館所蔵あり）、直木賞受賞は川口松太郎の「鶴八鶴次郎」「風流深川唄」等（所蔵なし。県内取寄せ可）でした。当館に所蔵している過去の受賞作を、一部ですがご紹介します。

芥川賞

『背高泡立草』（古川 真人／著、集英社）



第162回

草刈りの為、母の実家である長崎の島を訪れた奈美。今は空き家だが、過去には色々な思いや事情を抱えてそこで過ごした人々がいた。今と昔が交差する記憶と歴史の物語。

『コンビニ人間』（村田 沙耶香／著、文藝春秋）



第155回

36歳未婚彼女なし、古倉恵子。コンビニのバイトは18年目。でも不満はない。ある日、婚活目的の男がバイトの新入りとしてやってきて…。『普通』とは何かを問う衝撃作。

『蹴りたい背中』（綿矢 りさ／著、河出書房新社）



第130回

高校1年生の「にな川」と「ハツ」はクラスの余り者同士。やがてハツは、あるアイドルに夢中にな川が存在が気になって…。不器用ゆえに孤独な二人の関係を描き、19歳で最年少受賞した一作。

直木賞

『熱源』（川越 宗一／著、文藝春秋）



第162回

樺太で生まれたアイヌ。故郷を奪われたポーランド人。樺太で出会った二人は、自らの生きる意味を見出していく…。明治維新後、樺太のアイヌに何が起こっていたのか。圧巻の歴史小説。

『蛸ノ記』（葉室 麟／著、祥伝社）



第146回

羽根藩の檀野庄三郎は幽閉中の元郡奉行・戸田秋谷の元へ遣わされる。秋谷は不義密通の罪で家譜編纂と10年後の切腹を命じられていた。監視と事件の真相探求を命じられた庄三郎は…。

『容疑者Xの献身』（東野 圭吾／著、文藝春秋）



第134回

天才数学者でありながら冴えない高校教師に甘んじる石神は、想いを寄せる女性を守るため完全犯罪を企てるが…。湯川学が謎を解くガリレオシリーズの初長編。

『風待ちのひと』（ポプラ社）伊吹さんデビュー作。美鷲の町は、なんと尾鷲がモデル！

ねえねえ知ってる？

今回も含めてこれまで3回、直木賞候補になった伊吹有喜さん。実は **尾鷲生まれ** なんです！お母様の故郷が尾鷲なので、幼い頃の伊吹さんもお盆などによく帰っていらっやったそうです。伊吹さんの小説は映画化・ドラマ化・なんと宝塚で舞台化までされています。この機会にぜひ(^^*)！



『四十九日のレシピ』（ポプラ社）

母を亡くして氣力を失った父と傷心で出戻った娘の元に、母の教え子という金髪ギャルが訪れる。



『ミッドナイト・バス』（文藝春秋）

故郷で深夜バス運転手として働く利一。ある夜、16年前に別れた妻が乗車してきて…。



『カンパニー』（新潮社）

バレー団に出身した会社員と引退危機のダンサー。各々「白鳥の湖」の成功を目指す…。



『とっさの方言』（ポプラ社）

人気作家64名が故郷の方言を綴った一冊。伊吹さんは尾鷲がモデル！

3ヶ月ランキング

2020年4月～6月です

1位 『三年長屋』

（梶 よう子／著、KADOKAWA）
河童の神様が祀られた通称「三年長屋」に住むものは、なぜか3年ほどで出世したり、良縁に恵まれたり…。長屋の差配と店子たちが織りなす奇蹟の物語。



2位 『わるじい慈剣帖3』（風野 真知雄／著、双葉社）

『清明』（今野 敏／著、新潮社）

『帝都地下迷宮』（中山 七里／著、PHP研究所）

『神域』上・下（真山 仁／著、毎日新聞出版）

3位 『イマジン？』（有川 ひろ／著、幻冬舎）

『わかれ縁』（西條 奈加／著、文藝春秋）

……………★ 小説以外の1位 ★……………

『何歳からでも丸まった背中が2カ月で

伸びる！』（安保 雅博・中山 恭秀／著、すばる舎）



図書館HPがリニューアルしました

昨年9月に図書館システムを更新し、HPをリニューアルしました。蔵書検索や予約依頼がご自宅です。できます。

尾鷲市立図書館で検索 図書館トップページ



☆PC・スマホのどちらからでも予約依頼ができます。

メールアドレスを登録しておく、図書館からの

予約連絡がメールで受け取れるようになります。

初回ログインのみ図書館発行のパスワードが必要です。すぐ発行できますので気軽に職員までお申し付けください。詳しい予約の方法はこちらをどうぞご覧ください⇒



尾鷲市HP → 行政のサイト → 文化・スポーツ →

図書館活動 → インターネット予約について